

必修分野	産婦人科研修プログラム
研修受け入れ科	産科・婦人科
研修プログラムの概要・特徴	<p>1. 概要            当院の産科婦人科ならびに周産母子センターにおける研修を行う。研修期間は1ヵ月ないし2ヵ月であるが十分な研修のためには2ヵ月を推奨する。研修定員は原則として月あたり6名以下とする。（1ヵ月：4週以上）</p> <p>2. 特徴            熊本大学病院産科婦人科は、婦人科38床、産科21床で、小児科と共同で運用している総合周産期母子医療センター内に15床の新生児集中治療室（NICU）、6床の胎児母体集中治療室（MFICU）を開設している。年間400例以上の婦人科手術を行い、ここ数年の婦人科がん手術件数は九州の全医療機関中上位3位以内にある。また年間約400例の分娩管理を行い、毎年100例以上の周産期救急搬送に対応している。さらに各種出生前診断や遺伝カウンセリングを行っている。本院は日本産科婦人科学会、日本婦人科腫瘍学会、日本生殖医学会および日本周産期・新生児医学会、日本人類遺伝学会の各専門医制度の研修施設認定を受けている。</p>
研修の目標	<p>（一般目標）            一般的な診療において頻繁に関わる女性特有の疾患に適切に対応できるよう、女性特有の疾患に対するプライマリケア、妊娠の診断に必要な基本的診療能力を身につける。また妊娠・分娩管理ならびに新生児の管理に必要な基本的診療能力を身につける。</p> <p>1ヵ月間の研修では、下記の経験目標ならびに疾患・病態について、臨床研修において求められる最低限の経験が可能である。2ヵ月間の研修では、下記の経験目標、疾患・病態について基本的な経験を積むことができる。</p> <p>（行動目標）            臨床研修の目標（p11）に準ずる。</p> <p>（経験目標）            A 産婦人科において経験すべき診察法・検査・手技</p> <p>（1）医療面接            1）妊娠の有無に留意した患者の問診および病歴の記載ができる。            2）患者のプライバシー、家族背景、社会的側面に配慮できる。</p> <p>（2）基本的な身体診察法            1）急性腹症を呈する女性の診察ができる。            2）妊婦健康診査に必要な診察を行うことができる。</p> <p>（3）基本的な臨床検査            1）妊娠の診断に必要な臨床検査を選択、施行し結果を解釈できる。            2）妊娠による母体の生理的変化を述べることができる。            3）生殖内分泌領域の検査結果を評価できる。            4）婦人科細胞診・病理組織診の検体を採取し、結果を評価できる。            5）骨盤CT、MRI検査の結果を評価できる。            6）超音波断層法による骨盤臓器の観察ならびに胎児計測ができる。            7）胎児モニタリングを評価することができる。</p> <p>（4）基本的手技            1）婦人科良性疾患手術、帝王切開術の助手を務めることができる。            2）出生直後の新生児のバイタルサインをとることができる。            3）新生児の採血を行うことができる。</p> <p>（5）基本的治療法            1）産科診療に必要な薬物の作用、副作用、相互作用、催奇形性を理解し、</p>

	<p>適切な薬剤を選択することができる。</p> <p>2) 婦人科腫瘍に対する抗がん化学療法において必要な薬物の作用、副作用、相互作用を理解し、適切な薬剤を選択することができる。</p> <p>3) 婦人科性器感染症の検査・診断・治療計画が立案できる。</p> <p>4) 婦人科良性疾患手術、帝王切開術の周術期管理を行うことができる。</p> <p>5) 産科出血に対する応急処置が理解できる。</p> <p>(6) 医療記録</p> <p>1) 出生証明書などの分娩に伴う書類の作成ができる。</p> <p>2) 男女雇用機会均等法に基づく書類の作成ができる。</p> <p>(7) 診療計画</p> <p>1) 地域医療連携を理解し実践できる。</p> <p>2) 母体保護法関連法規を理解できる。</p> <p>B 産婦人科において経験が求められる疾患・病態</p> <p>(1) 妊娠分娩（正常妊娠、流産、早産、正常分娩、産科出血、産褥）</p> <p>(2) 女性生殖器疾患およびその関連疾患（月経異常、不正性器出血、更年期障害、外陰・膣・骨盤内感染症、骨盤内腫瘍）</p>																														
<p>研修の方略 (スケジュール等)</p>	<p>3つの診療グループのいずれかに配属され、各グループの指導医が研修状況を統括する。研修医は各グループの構成員と組となって婦人科、産科の別なく患者を受け持ち、研修を行う。</p> <p>○週間スケジュール</p> <table border="1" data-bbox="437 952 1417 1176"> <thead> <tr> <th></th> <th>月</th> <th>火</th> <th>水</th> <th>木</th> <th>金</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>Journal club</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>午前</td> <td>外来</td> <td>手術/病棟</td> <td>外来</td> <td>手術/病棟</td> <td>外来</td> </tr> <tr> <td>午後</td> <td>回診</td> <td>手術/病棟</td> <td>病棟</td> <td>手術/病棟</td> <td>手術/病棟</td> </tr> <tr> <td>夕方</td> <td>臨床カンファレンス</td> <td></td> <td></td> <td>周産期カンファレンス</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ただし、分娩、緊急手術は上記のスケジュールに優先する。</p> <p>○医局内の研究会</p> <p>研究カンファレンス（月1-2回水曜日朝）</p> <p>Tumor board：不定期</p> <p>○参加可能な産科婦人科関連の学会・研究会（県内）</p> <p>熊本産科婦人科学会学術講演会：年3回</p> <p>熊本女性医学講座：年3回</p> <p>熊本県産婦人科医会定例総会・学術講演会：年2回</p> <p>熊本県がん検診従事者認定協議会子宮がん検診従事者講習会：年1回</p> <p>熊本婦人科悪性腫瘍研究会：年2回</p> <p>熊本周産期懇話会：年4回第3水曜日 他</p> <p>○参加可能な産科婦人科関連の学会・研究会（全国）</p> <p>日本産科婦人科学会学術講演会：年1回 他</p>		月	火	水	木	金				Journal club			午前	外来	手術/病棟	外来	手術/病棟	外来	午後	回診	手術/病棟	病棟	手術/病棟	手術/病棟	夕方	臨床カンファレンス			周産期カンファレンス	
	月	火	水	木	金																										
			Journal club																												
午前	外来	手術/病棟	外来	手術/病棟	外来																										
午後	回診	手術/病棟	病棟	手術/病棟	手術/病棟																										
夕方	臨床カンファレンス			周産期カンファレンス																											
<p>研修の評価</p>	<p>研修医は、産婦人科研修終了時に、研修医手帳に基づき、プログラム責任者による厚生労働省の経験目標、行動目標の達成度評価を受ける。また医師としての態度、特に患者のプライバシーや家族背景、社会的側面への配慮を、プログラム責任者または指導医の観察に基づいて評価する。</p>																														
<p>研修実施責任者</p>	<p>産科・婦人科長：片渕 秀隆</p>																														
<p>研修指導責任者 (指導医)</p>	<p>(正) 大場 隆 (副) 本原 剛志</p>																														
<p>その他特記事項</p>	<p>なし</p>																														